



2026年4月22日に開催された

2026年度第1回理事会(臨時)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●次期評議員候補者(理事会推薦)の決定について

- ・理事および9ブロック理事長推薦を経て専務理事から推薦された次期評議員候補者を評議員選定委員会への推薦に向けて機関決定を行う。
- ・次期評議員候補者の属性・職歴など概要の確認を行った。
- ・4月末から開始する評議員選定委員会において選任する運びとなる。
- ・6月12日の定時評議員会にて現評議員体制が終了する。同日開催される臨時評議員会は新評議員体制でスタートし評議員会議長を決定する。

【決裁事項】

評議員選定委員会に推薦する次期評議員候補者(理事会推薦)が承認された。

●基本規程の新設について(再提案)

- ・基本規程については、前回の理事会で一度提案を行っているが、表現の修正、用語の定義について意見をいただいていたため、金野理事を中心にご協力いただき、顧問弁護士に確認の上、再提案する。
- ・バレーボール関係者が共有すべき考え方、ルール順守義務等を纏め、定款の章立てと合わせていることで定款と各種規程をつなぐ規程という位置づけとなる。

【決裁事項】

提案のとおり、基本規程の新設について承認された。

●印章取扱規程の改定について

- ・2025年6月改選時に業務執行理事と職員の兼務を見直したことにより事務局長単独の印章が必要となったため、公印として新たに設けたい。
- ・協会スタンプについては、海外向けに発信する文書の使用に限ることを明確にしたい。
- ・今後に向けては、印章の数が非常に多いため、管理方法だけでなく、実際の手続きや印章の精査についても検討していきたい。

【決裁事項】

提案のとおり、印章取扱規程の改定について承認された。



## ●役員の担当職務の変更および重要な使用人の選任について

### ■業務執行理事の役員担務の変更について

内藤 拓也：マーケティング&プロモーショングループ シニアダイレクター代行（退任）

### ■重要な使用人の選任について

原田 敬久：マーケティング&プロモーショングループ シニアダイレクター（新任）

## 【決裁事項】

提案のとおり、業務執行理事の役員担務の変更および重要な使用人の選任についてそれぞれ承認された。

## ●登録規程の改定について

- ・有資格者である指導者、審判員、判定員の資格区分や申請先、加入年齢、更新年数、登録料などをカテゴリーごとにしっかり明記した内容を表に纏めたため、規程内の別表3として追記したい。

## 【決裁事項】

提案のとおり、登録規程の改定について承認された。

## <報告事項>

### ●会議年間スケジュール

2026年7月～2027年7月までの年間スケジュールが共有された。

### ●ガバナンスコード適合性検査の結果について

昨年、令和7年度は4年に一度のスポーツ団体ガバナンスコード適合性審査の年であったため、審査に向けての資料提出を行った。今回この適合審査の結果が通知され、審査結果は“適合”となり、43項目、全ての項目においてA評価であった。

また、審査所見として、5項目にわたり本協会の取り組みに対しての好事例が挙げられた。

### ●コンプライアンス委員会 2025年度報告

2025年度のコンプライアンス委員会活動を報告する。コンプライアンス違反の受付件数は119件、そのうちJSPO対象件数が50件、JVA内で検討していくべきものが20件、JSPOに処分案を上程し、JSPOで処分が決まったのが7件であった。昨年度と比較して、ほぼ同傾向であり、コンプライアンス通報フォームが浸透し、活用されていることから、同じペースで動いていることを認識している。中身を分析すると、カテゴリー別の件数は、「小中高」がそれぞれ3分の1ずつを占めており、「その他」が若干数となっている。今後、中学校部活動から地域のクラブチームに移行して、部活動より地域のクラブチームが増えていくことで、結果に何かしら変更が生じてくる可能性もある。

また、小学生のカテゴリーも約3分の1の割合で通報があるため、若年層に対してのケアがより指導者には求められていくことを理解している。行為別については、「暴言」が半分の49%、「体罰的な暴



力」が 13%で、「他ハラスメント行為や不適切行為」と「その他」が約 38%であった。傾向的には、2024 年度からの変更は見られなかった。

### ●100 周年記念事業プロジェクトの進捗報告

先月の理事会で 100 周年記念事業については、一つ一つの単体行事等については進んでいるものの、全体のコンセプトやスローガンなど推進体制が見えていない中で、「100 年に 1 回の貴重な機会であるため、マーケティングを中心にこの機会をしっかりと活かし、今後 100 年に繋げていく推進体制をつくるべきではないか。」という意見があった。それを踏まえて、早速、数名の外部理事からなるプロジェクトのステアリングコミッティを結成した。川合会長をプロジェクトオーナーとし、國分専務理事がプロジェクトマネージャー、プロジェクトリーダーに村上事務局長という形としている。戦略パートナーとして、矢花氏とアドバイザー契約を結び、マーケティング戦略の全体に関わるアドバイスをいただく。特にこの 100 周年が大変貴重なタイミングでもあるため、まずは 100 周年についてどう進めていくのかをパートナーとしてアドバイスをいただく中で、様々なプロモーション方法や、訴求のあり方について検討し始めている。体制の中にはプロジェクトメンバーとして各シニアダイレクターが、「記念試合」「普及/キャラバン」「マーケティングプロモーション」「記念式典」を担当し、特にマーケティングプロモーションの原田シニアダイレクターが全体を見ていくかたちで進めていきたい。

### ●評議員会から提出された意見書への対応について

評議員会から意見書が届いた。そのなかでは、「公益財団法人のガバナンス・コンプライアンスのあり方」「公益通報のあり方」および「中央競技団体と外部組織との適正な関係」の観点から、理事会宛てに 9 項目の対応を求められている。対応項目の中に「外部理事の立場から本事業に対する問題点を明らかにしていただきたい。」という要望が出され、個別に見解が求められていることから、本理事会の中で非常勤理事からの意見を確認した。意見書に対する回答については、今後の評議員会、懇談会の中で報告していく。

以上